

「おふくろの小学校の卒業証書が出てきたんだ」と言つて見せられたのが左の証書。近くの、おふくろさんの生家から届けられたらしい。同じ逆井の農家同士、日暮から日暮への嫁入り。それも二百メートルとは離れていない。

すでに、いまの土小学校のところにあつたわけだから、生家からの通学距離としては、ちよつと遠かつたか。しかし、増尾小へは酒井根などかなりの距離を通つた子どもたちが多かつた。

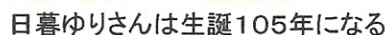
戸張、柏、高田、松ヶ崎、篠簞田の村々が合併して出来た千代田村誌によれば、「暑熱、寒風の際片道一時間余に及ぶ通学は、児童にとつて誠に苦



(上)増尾の医王山万福寺。ご本尊は薬師如来。鐘楼や阿弥陀堂がある。

(下)逆井の安楽山観音寺。ご本尊は不動明王。観音堂がある

ともに流山市鯖ヶ崎の東福寺の末寺。あああああ



痛なる事なり」と言っているが、増尾小の児童にとつても同じことだつたらう。

増尾、逆井の村では、明治五年に、増尾満福寺を仮校舎として小学校が設置された。七年には逆井観音寺に逆井校が出来ている。行念寺には新宿校があり、この三校が二十五年に合併し、寺院から離れて増尾尋常高等小学校が誕生する。

このときはすでに、増尾、名戸ヶ谷、藤心、逆井等十一の村が合併し土村となつており、同校が土尋常高等小学校となるのは昭和二年のことになる。

増尾尋常高等小学校設立時の生徒数は、四年制の尋常科一三七名（うち女子三二名）、三年制の高等科五八名（うち女子六名）で、女子が少ないのは、子守に代表される役割をになつていたためとされている。

授業料はただではなかつた。尋常科は一ヶ月金十銭、高等科は二五銭を徴収している。船戸小学校では年額六円二銭という。原則として、地域住民が負担し、政府の扶助委託金は村費の一割にも満たなかつたようである。

末広クラブ・逆井散歩113 平成20年1月